

平成29年度 田尻さくら高等学校 学校評価 補足資料

学校評価の意義

(高等学校に準用)

小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。 [学校教育法第42条]

1. 生徒提出分

回収率が、昨年度の82%から、今年度は75%でした(一昨年度79%)。年次で見ると、1年次72%、2年次88%、3多年次87%となっている。長欠者を除いて、生徒の回答方法については、空欄があったり裏面が記されていないかったりともう少ししきめ細やかに指示すべきだった。

(1) 肯定的評価(とても当てはまる・だいたい当てはまると回答)が高いもの、伸びたもの

①少人数授業は、授業内容を理解するのに役立っている。	95%→90%
②災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	88%→87%
③挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。	91%→86%
④進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	91%→92%

※全年次による比較

①少人数授業による授業内容の理解が90%と、評価の割合が大変高くなっている。今後も一人ひとりの学びの状況をきめ細かく把握し、手厚い授業の実践が必要であると思われる。保護者もそのことを望んでいる。(保護者回答96%)昨年度より5%ダウンについては、教職員の学校評価の学習成果の向上90%→78%この結果を反映しているようにも思える。

②災害・非常時の安否確認メールの練習やすまいる園との合同避難訓練は生徒の防災に対する意識付けに役立った。いつ災害が起こるか分からないことから、今後とも教職員が防災に関する意識を高く持つことが大事であり、常時防災マニュアルを確認する必要がある。保護者の回答も肯定的な回答(93%)が高い。

③挨拶やマナーについて、平日頃から教職員が授業や廊下等で挨拶をしている姿が生徒に伝わってきているように感じる。マナーについては、公共の場においてのルールを継続的に粘り強く生徒に伝えていき社会に通用する人材を育成したい。保護者もこのような指導を望んでいる。(保護者回答84%)5%のダウンは、自治会活動の不活性化(自治会生徒によるあいさつ運動)も起因しているのではないかと感じる。

④進路指導について、常に出口を意識しながら、さらに、社会で活躍できる人材の育成に教職員は全ての教育活動で指導していくべきであると感じた。保護者からも高評価であった。(保護者回答94%)

(2) 否定的評価(あまり当てはまらない・当てはまらないと回答)が高いもの・伸びたもの

①日常の清掃活動にまじめに取り組んでいる。	8%→23%
②愛好会活動は活発に行われている。	55%→46%
③自治会活動は活発に行われている。	28%→44%

※全年次による比較

①清掃活動への取り組みについて、基本的な生活習慣に関する指導全般が生徒へ浸透するのに昨年度よりも先生方の苦勞を要しているように感じる。SHR指導の工夫とともに清掃指導をしっかり行っていきたい。

②否定的評価は昨年度よりも少なくなってきたが、項目の中で一番高い数値である。オリエンテーション等で生徒に活動の大切さを意識させながら教員も常に働き掛けていく必要も感じる。

③自治会活動についても②と同様に工夫していかなければと感じる。

2. 保護者提出分

回収率が、昨年度の65%から、今年度は59%へとやや下がった(一昨年度48%)。今年度は成績通知表とともに配付したが、今後とも工夫して回収率を上げていきたいと考える。

ここでは、とくに目立った項目を取り上げてみる。

(1) 肯定的評価(とても当てはまる・だいたい当てはまると回答)が高いもの、伸びたもの

①田尻さくら高校は子どもの教育に熱心に取り組んでいる。	91%→99%
②子どもを田尻さくら高校に入れてよかった。	90%→91%
③子どもたちの学習や読書活動に図書館が役立っている。	75%→81%

※全年次による比較

①②保護者の多くは、田尻さくら高校に子どもが入学してよかったと考え、学校が熱心に教育活動に取り組んでおり、子どもの学校生活は充実していると感じている。

③図書館については、生徒の肯定的評価が昨年度も今年度も8割を超えており、生徒の声が保護者の評価につながっていると思われる。図書貸し出し数も本校は多いことから、生徒の教育に大変寄与していると思われる。

(2) 否定的評価(あまり当てはまらない・当てはまらないと回答)が高いもの・伸びたもの

①子どもは、学習の仕方や内容を身につけている。	14%→26%
②PTA活動は活発であり、積極的に参加している。	51%→50%

※全年次による比較

①学習内容の理解促進について今後とも工夫していかなければならないと感じる。

②PTA活動については、保護者自身の「積極的な参加」についての自己評価なので、否定的評価の割合が高いのは当然であろう。しかしながら、現状をしっかりと把握した上で、総務部の先生方を中心とした働きかけが今後とも必要であろうと思われる。